

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|------------|----|--------------|
| ○事業所名 | 淡路こども園 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2024年4月1日 | | ～ 2025年3月31日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 30 | (回答者数) 25 |
| ○従業者評価実施期間 | 2024年4月1日 | | ～ 2025年3月31日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 8 | (回答者数) 8 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年3月20日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|--|---|
| 1 | 「本人主体の支援」と「家族支援」の両輪で支援している。中でも家族支援で親に寄り添い、下の兄弟のことも含めて支援をしていることの意味が大きい。 | 子どもの発達状況にあわせた支援と、家庭の状況にあわせた相談や援助を行うべく、保護者と普段からコミュニケーションを取るようし、要望や不満も含めて、話をしやすい関係を心がけている。 | 複合的な課題を抱えている家庭が増えていると実感しているため、こども園の中だけで解決しようとせず、関係機関とも連携して必要な相談・支援につなげていきたい。 |
| 2 | 保護者会や卒園児の親の会があり、行事や勉強会・講演会を合同で行っていることで、幼児期だけでなく将来的な見通しを持って、支え合い・学び合いができる。 | 親子通園時に先輩の保護者にも来園してもらって話をする機会を作ったり、情報提供してもらったり、懇親会を実施している。 | 親同士で顔の見える関係を作りために、頻度を増やしたり、内容についても保護者主体で話し合っ決めてられるようにしていきたい。 |
| 3 | 親子通園を行っている。子どもの様子を保護者と職員と一緒に確認しながら支援することで、子どもの理解や対応について保護者に理解してもらったり、手ごたえをつかんでもらえる。 | 保護者の状態や家族の状況によって、親子通園自体が難しいケースがある。各々の状況に配慮して必要な援助を行う等、柔軟に対応している。 | 保護者が精神疾患や障がいがあったり、単身の保護者の中には、働かないといけない等で親子通園が難しいケースがある。これまでの枠組みでやるだけでなく、曜日や時間など家庭の状況に合わせて対応することも必要。 |

| | 事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|---|--|
| 1 | 環境・体制に整備について、建物の老朽化とエレベーターがない等、バリアフリーが部分的であること。加えて、既定の職員数以上の職員は配置されているが、子どもの状況によってはマンツーマン対応ができる体制が十分あるとはいえない。 | 施設の老朽化に伴う設備の故障や不具合については都度修理や買い替えを行っているが、快適さに欠ける。職員の数だけでなくフォロー体制や連携の問題がある。 | 毎日の清掃や消毒・整理整頓と、定期的な安全チェックを実施する。 施設の建て替えについて将来を見据えて計画的に取り組む。 |
| 2 | コロナ禍以降、保育園や幼稚園との交流や、地域の子どもと活動する機会がない。 | コロナ以前に行っていたことが、今は出来ていない。理由としては、今年度は特に年間を通じて感染症が流行ったことが大きい。 | 保護者や子どものニーズや意思確認をした上で、地域の公園や行事に参加したり、連携の取りやすい法人内の保育園と交流保育を再開する。事業所の行事に参加してもらえるよう地域向けに開放する。 |
| 3 | 活動プログラムが固定化されがち。 | プログラムの内容や展開の仕方等、子どもの発達状況に合わせて、工夫や臨機応変な対応が十分になされていなかった。 | 職員の資質向上のため、活動プログラムを行う前と後に打合せ・振り返りを徹底し、課題や目標をはっきりさせて取り組むように改善したい。 |